

平成26年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

整理番号 5 - 4 - 8

事務事業名	ごみ焼却施設整備事業				担当課係	環境衛生センター	
総合計画上の位置付け	大項目	6. 「街が輝く」			記入担当者		
	中項目	①快適に暮らせる生活基盤の整備			内線等		
	小項目	5. 生活関連施設の整備			E-mail		
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）				事業区分	経常事業	
事業予算費目	款	4	衛生費	項	2	清掃費	
	目	2	塵芥処理費	事業	9	ごみ焼却施設整備事業	
開始年度	昭和 58	年度	根拠法令・要綱等 廃棄物の処理及び清掃に関する法律				

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） ごみ焼却施設を適正な状態で稼働できるように点検整備する。
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） ごみ焼却施設の点検整備を行い、適正な維持管理のもとでごみを焼却処理する。
事業の内容 （内容・手法等）	（こういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 点検整備工事を設計委託し、改修する箇所等を決定した後、入札後審査方式一般競争入札（総合評価落札方式（施工能力審査型））を実施しておりますが、入札参加者が1者しかなく、開札執行が取り止めとなっている。そこで、早急な整備工事が必要である本焼却施設の現状を踏まえ、入札参加者と価格交渉を行い随意契約により工事を発注している。工事完了後は、市工事検査規定に基づく契約検査課の竣工検査を経て工事を完了している。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 本市のごみ焼却施設は、昭和58年に建設、運用を開始し、平成11年ダイオキシン対策による施設の大規模改修を実施後、毎年点検整備工事や修繕工事等を実施している。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明					指標化できない成果
	可燃ごみ処理実績		可燃ごみ年間焼却量					
	単位		H25	H26	H27	H28	将来目標 (年度：平成)	
トン	目標	12,774	12,659	12,544	12,428	12,199 平成30年度		
	実績	12,602	12,760					
	達成度	98.7%	100.8%					

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H25	H26	H27	H28	指標の説明
	計画	実績						
燃やせるごみ	計画		トン	9,020	8,931	8,842	8,754	一般廃棄物処理基本計画(H26.3)P資-15
	実績			8,934	9,071			
粗大ごみ	計画		トン	331	334	337	340	
	実績			208	104			
事業系燃やせるごみ	計画		トン	3,423	3,394	3,365	3,334	
	実績			3,460	3,585			
合計	計画		トン	12,774	12,659	12,544	12,428	
	実績			12,602	12,760			

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

全体コスト（円）	関連事業費	25年度決算		26年度決算		27年度決算		26年度予算		
		金額	内容	金額	内容	金額	内容	金額	内容	
A	直接事業費	91,507,500		154,016,640		0		154,893,000		
		財源内訳	国県支出金							
			地方債	88,497,000		120,200,000				
			利用者負担							
			一般財源	3,010,500		33,816,640				
		B	人件費 ①×②	6,129,047		6,277,972		0		
			職員平均人件費①	6,129,047		6,277,972				
従事した割合②/人	1.00			1.00						
A + B		97,636,547		160,294,612		0				
単位コスト	活動指標の説明		処理費用/処理量	処理費用/処理量			備考			
	活動指標1 単位当たりコスト		7,748	12,562			平成25年4月1日現在 人口40,733人			
	市民一人あたりのコスト		2,397	3,974			平成26年4月1日現在 人口40,333人			

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 次期焼却施設等の中間処理施設の整備に向けた取り組みとして、徳島東部7市町村で構成される徳島東部地域環境施設整備推進協議会において広域整備に向けた協議を行い、目標年度における施設の稼働を目指した協議・検討を進めている。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 適切な施設の維持管理に努め、効率的かつ安定的なごみ焼却事業の運営が望まれている。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	ごみ処理は、市民が日常生活を営む上で必要不可欠である。必要性が高い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	ごみ焼却施設は、市の重要施設である。適正な維持修繕を実施する必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいか、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	整備箇所については、市、設計業者及び管理者の三者で協議し、優先順位をつけて、毎年予算に合わせて計画的かつ効率的に工事している。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	施設の老朽化が著しく、至る所で設備の不具合等が発生しており、早急に改修していく必要がある。緊急性が高い事業である。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	特殊な施設であることから整備費用も高額となり、予算上の問題から十分な整備ができていないのが現状である。焼却に支障がないよう最低限の修繕は実施されている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	予算的な面から施設の整備が追いつかず、更なる老朽化による不具合で運転不可能になる恐れが十分にある。現在、近隣自治体による広域での施設整備を検討しているが、完成時期は未定である。このことから、経年劣化に伴う老朽化した施設の延命化対策を喫緊の検討課題としている。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	1	事務事業の方向性		評価点	判定	理由
		1 拡充する	2 現状のまま継続する			
				80点以上	判定	ごみ焼却施設を維持管理することは、ごみ行政の根幹である。施設の焼却能力と効率性を踏まえ、適正な運転ができるように拡充する必要がある。
				60～79点	1	
				50～59点		
				40～49点		
				30～39点		
				20～29点		
				19点以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	1	事務事業の方向性		判定説明		
		1 拡充する	2 現状のまま継続する		3 改善・効率化し継続	4 見直しの上縮小する
				市民の生活環境を確保するため、老朽化した本施設を計画的に整備し、広域施設が稼働するまで延命化を図る必要がある。		